

はやね はやおき 朝ごはん テレビをとめて外遊び

平成30年度

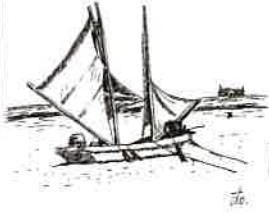
別海町立野付小学校

学校だより No8

平成30年10月31日

発行責任者

校長 山本 尋子



三角帆

< あいさつ ・ えがお ・ おもいやり >

学び合えた学芸会

一雨ごとに冬の足音を感じさせる季節となりました。自転車で通ってくる子ども達も手袋に上着にと防寒対策をして頑張っています。11月に入ると、いつ雪が降るかわかりません。後わずかの自転車通学ですが、寒さに負けず、そして、道路が凍って危険な朝は歩いてくる勇気をもって学校に来てほしいと思います。

さて、14日の学芸会には、お忙しい中たくさんの保護者・地域の方のご来校をいただきありがとうございました。温かな声援と大きな拍手が子ども達の背中を押し、いつも以上の姿を見せてくれたようです。

今年の学芸会では練習の段階から、自分たちで考えて練習する場面を多く見ました。劇のセリフを覚えた後は、どんな振りを付けたらいいだろう、どんなふうに言ったらいいだろう、友だち同士で教え合ったり、先生のアドバイスを受けてたりと練習を積み重ねていきました。一番子ども達が変わったのが、総練習で他の学年の演目を見た後でした。他の学年のいいところを見て、自分たちもあんな風に演じたい頑張りたいという気持ちで、日曜日の本番を迎えたようでした。今回で言えば、6年生の真剣に劇や器楽に向き合う姿勢を、下の学年が見習い、自分たちもそれに追いつきたいという気持ちの高まりを生んだのだと思います。

このことは、子ども達の学校生活のいろいろな場面に通じるものがあります。上級生が下級生に「範」を示し、それを「みて、まねて」下級生は多くを学んでいきます。また、上級生にとっても、下級生に「範」を示せるよう襟を正していかなければならないという、気持ちの引き締めを生みます。「みて、まねて」学んでいこうとする気持ちを持ち、一方「範」を示すことで自分を律する気持ちを育む、そんな関係が野付小学校の子ども達の成長に繋がっていることを改めて感じました。これからも、この関係を大切に、互いに学び合える子ども達でいてほしいと思います。

校長 山本 尋子

読書キャラバン

国立大雪青少年交流の家・北海道立図書館の方が小学校に来校し読み聞かせ、ブックトーク、缶バッジ作りなど、楽しい活動をしてくださいました。道立図書館からは、たくさんの仕掛け絵本をもってきてくれました。不思議で面白い絵本に子ども達は釘付けでした。



仕掛け絵本が一杯



低学年は読み聞かせ、高学年はブックトーク



自分だけの缶バッジ作り